

# 参考資料

注：この参考資料で紹介する方法は、図書館にある一般資料に対する処置であり、古典籍や各館で貴重書とされる資料、劣化の著しい資料に施す方法ではありません。

出典：

国立国会図書館「資料保存研修」

講義テキスト

([http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/pdf/training\\_text\\_h25.pdf](http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/pdf/training_text_h25.pdf))

実習テキスト

([http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/pdf/training\\_text2\\_h25.pdf](http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/pdf/training_text2_h25.pdf))

テキスト最新版掲載ページ：研修・保存フォーラム

([http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/data\\_operat\\_training\\_preservation.html](http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/data_operat_training_preservation.html))

日本図書館協会資料保存委員会「リーふれっと資料保存」

(<http://www.jla.or.jp/portals/0/html/hozon/leaflet.html>)

他、個別に記載

## 材料・道具の紹介、選び方

### 糊

- ・ヤマト糊(<http://www.yamato.co.jp/item/yamatonori/>)  
でんぷん糊で、保存料や香料等の添加物が少なく、取り扱いもしやすい。  
一般書の補修なら適している。
- ・生麩糊（正麩糊）  
小麦でんぷんを抽出した粉状で販売。ヤマト糊以上に安定している。  
ただし使用の度に煮るなどして糊状に作らねばならず、保存は10日程度と短い。糊への製法は、Web上に様々な紹介がある。

### 和紙

- ・紙舗 直（東京 <http://www.paperna.com/>）
- ・楽紙館（京都 <http://rakushikan.com/>）
- ・福西和紙本舗（奈良 <http://www.synegeo.com/fukunishi/>）
- ・近安渡辺商店（大阪 表装道具店。和紙・刷毛など）
- ・他、図書館用品企業も取扱いあり。品質と価格はさまざま。

### 中性紙・保存用品（クータ用紙・カイルラッパー・保存箱等）

- ・特種紙商事（<http://www.tokushu-papertrade.jp/index.html>）  
中性紙と保存用品の製造販売。紙資料や保存の基礎知識、対策例も紹介。

### 選ぶポイント

糊・・・①材料：でんぷん

②材料比率：①100%or 他の添加物あり

③添加物：保存料、香料の有無

（長期間保存のきく物は、保存料が入っていると考えてよい）

和紙・・・①材料：楮(国産)or 楮(海外産)or 三桮 or 雁皮

②材料比率：①のいずれか100%or 他の混ざり物あり

③漉き方：手漉き or 機械漉き

④乾燥法：天日干し or 機械乾燥

④添加物：漂白剤、染料の有無

中性紙…紙の品質・寿命の優劣

中性紙(保存用。特種紙商事の製品など)＞中性紙(一般のクラフト紙・コピー紙など「中性」表記のもの)＞中性紙(再生紙)＞酸性紙

基本的に、品質が良いほど価格は高い。資料の価値とコストを考慮して判断する。

## 道具類

- ・製本工房リーブル（東京 <http://bookbinding.jp/clstudio.html>）
- ・各図書館用品企業など

\*製本・修復用品は価格の高いものが多い。良い道具を使うに越したことはないが、へら(スパチュラ)や刷毛、筆など、安価なものでも代替できる道具は多い。文具や化学実験道具の販売サイト、100円ショップ等も有用。

## 専門業者・研修講師など

### 専門業者(近畿圏内)

- ・工房レストア(大阪 <http://www.kobo-restore.com/>) 古書・表具・近代資料等
- ・大入(京都 <http://www.ooiri-co.com/>) 和古書等
- ・アトリエ・BOOK・クンスト  
(奈良 <http://www.npobook.join-us.jp/activity/atelier/index.html>) 洋古書等。NPO 法人書物の歴史と保存修復に関する研究会主宰者。

その他、近畿圏外にも多数。

### 選ぶポイント

「何でもできます」という業者さんよりは、「我が社の得意分野は〇〇」ときちんと説明してくれる業者さんの方が信頼できる。  
手作業の世界なので、コストと品質はある程度相関する。

### 研修講師

- ・国立国会図書館 収集書誌部 資料保存課  
(<http://www.ndl.go.jp/jp/library/preservation.html>)  
各種テキスト類公開、講師派遣など。自館でも研修を行いたい場合には適している。

その他、各専門業者でも依頼すれば可能なところは多数。